



大地

足寄小学校学校だより

非認知能力を育てる教育の大切さ～10回切って倒れない木はない～

若葉がまぶしい季節となりました。新しい学年が始まって一か月余り。子どもたちは、新しい友達や先生との出会いの中で、少しずつ自分らしさを発揮しながら学校生活を送っています。教室や校庭で見せる笑顔や真剣な表情から、日々の成長を感じる毎日です。

さて、先日、私はあるドラマのタイトルで見かけた「10回切って倒れない木はない」という言葉が心に残り、その意味を調べてみました。すると、これは韓国に古くから伝わることわざで、「どんな大きな木でも、あきらめずに切り続ければ、やがて倒れる」という意味をもつ言葉だと知りました。韓国語では、「열 번 찍어 안 넘어가는 나무 없다」と言い、直訳すると、「十回おのを入れても倒れない木はない」となります。

つまり、「**努力を続ければ、いつか必ず道は開ける**」という教えです。

日本にも、「石の上にも三年」「七転び八起き」「継続は力なり」といったことわざがあります。どれも共通しているのは、「人はすぐには成長しない。しかし、努力を積み重ねることで、必ず力が育つ」という考え方です。私は、この言葉は、今の子どもたちにとっても、とても大切なメッセージを含んでいるように感じました。

今、子どもたちに必要な「非認知能力」

近年、文部科学省やOECD（経済協力開発機構）では、「非認知能力」の重要性が繰り返し示されています。非認知能力とは、テストの点数などでは測れない、

「自己肯定感」「粘り強さ」「協調性」「思いやり」「自己調整力」「最後までやり抜く力」などの「心の力」を指します。変化が激しく、正解の見えにくいこれからの社会では、「知識を覚える力だけではなく、自ら考える力、他者と協力する力、失敗しても立ち上がる力」が、ますます重要になると言われています。

一方で、現代の子どもたちは、とても優しく、周囲への気配りができる反面、「失敗したくない」「間違えたら恥ずかしい」「人と比べられたくない」という不安を抱えやすい傾向も見られます。

スマートフォンやSNSが身近な時代となり、常に誰かと比較されやすい環境の中で育っていることも、その背景の一つかもしれません。

安心できる場所が、子どもを伸ばす

日本財団が行った18歳意識調査では、日本の若者は諸外国と比較して、「自分に自信がある」「自分で国や社会を変えられる」「将来が楽しみである」

と答えた割合が低いという結果が報告されています。

また、日本財団が進める「子ども第三の居場所」事業では、安心できる居場所や信頼できる大人との関わりが、子どもの自己肯定感や意欲を高めることが示されています。

調査では、「ここなら安心できる」「頑張れば結果につながると思える」「夢や目標を考えられるようになった」と感じる子どもたちが増えたそうです。

私は、この結果に大きな意味を感じます。子どもたちは、「もっと頑張れなさい」と言われ続けるだけでは育ちません。「**失敗しても大丈夫**」「**あなたを見ていますよ**」「**少しずつでいいよ**」そんな安心感があるからこそ、自分から挑戦する勇気をもつことができるのだと思います。

家庭教育の中で育つ力

非認知能力は、特別な教育だけで育つものではありません。毎日の暮らしの中で、少しずつ育っていきます。例えば、

- 「朝、自分で起きようとする」
- 「苦手なことにも挑戦してみる」
- 「最後まで話を聞こうとする」
- 「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝える
- 「失敗してももう一度やってみる」

こうした経験の積み重ねが、「生きる力」の土台になります。大切なのは、結果だけを見るのではなく、「挑戦したこと」「続けていること」「やろうとしている姿」を認めることです。

「できたね」だけでなく、「**頑張っていたね**」「**続けていたね**」「**挑戦したね**」という言葉が、子どもたちの自己肯定感を育てていきます。

学校教育の中で大切にしたいこと

学校でも同じです。「漢字を繰り返し練習する子」「失敗しても縄跳びに挑戦し続ける子」「苦手な音読にも毎日取り組む子」「友達とうまくいなくても、もう一度関わろうとする子」その姿の中にこそ、本当に大切な学びがあります。

教育は、すぐに成果が見えるものではありません。木を一回切っただけでは倒れないように、子どもたちも一度の声かけだけですぐ変わるわけではありません。

「**毎日のあいさつ**」「**励まし**」「**見守り**」「**認める言葉**」「**安心できる学級づくり**」

そうした積み重ねが、子どもたちの心に確かな力を育てていくのだと思います。

「続けること」が未来をつくる

「10回切って倒れない木はない」この言葉は、単に「努力は大切」という意味だけではなく、「**人は、信じて関わり続けることで育つ**」という教育の本質を教えてくれているように感じます。

「**結果を急ぎすぎず、失敗だけを責めず、小さな成長を共に喜ぶこと。**」

それが、これからの時代に必要な教育なのではないでしょうか。

これからも学校と家庭、地域が、「切っても切れない」温かなつながりの中で、子どもたち一人ひとりの未来を支えていきたいと思います。今後ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

お願い 未来を拓く「学びの土台」を共に

～新・学力向上の取組スタート 月間「基礎力プリント」～

本校では、予測困難なこれからの社会を逞しく生き抜き、自ら人生の舵取りができる子供たちを育てるため、本年度より新たな「学力向上の取組」を本格始動いたします。保護者の皆様へご理解とご協力をお願いします。

1. これからの社会で求められる力とは

文部科学省が定める現行の学習指導要領では、これからの予測困難な時代を生き抜くために必要な資質・能力を「三つの柱」として整理しています。

1. 個別の知識・技能： 何を知っているか、何ができるか
2. 思考力・判断力・表現力等： 知っていることをどう使うか
3. 学びに向かう力・人間性等： どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

特に、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を育むためには、その大前提として「**個別の知識・技能**」という**確かな学力の土台**が不可欠です。

2. 本校の現状：分析結果から見える「伸び」と「次なる壁」

昨年度（令和7年度）の全学年で実施した標準学力調査（東京書籍）の結果を振り返りますと、国語・算数ともに過去2年間と比較して大きな伸びが見られました。特に、これまで「伸びしろ層」にいた児童が「中間層」へと移行しており、学校全体での底上げという素晴らしい成果が出ています。これは、学校全体で「読解力プリント」に取り組み、問題の意図を捉えることに注力した成果でもあります。

一方で、明確な課題も浮き彫りとなりました。国語では「言葉の理解や語彙力」に、算数では「基本的な四則計算の定着」に課題が残っています。

さらに、本年4月に実施した「令和8年度 全国学力・学習状況調査」の自校採点結果からは、子供たちのリアルな姿が見えてきました。

- 成果○ 算数の「十進位取り記数法（位取りの仕組み）」は正答率が高く、理解を示しています。また、記述問題でも「最後まで解答を書こうと努力する」姿勢が多くの児童に見られました。
- 課題○ 「なぜそうなるのか」を言葉や式、図を用いて論理的に説明する「表現する」段階に高い壁があります。計算はできて、そのプロセスを言語化する力、あるいは複数の条件を整理して読み解く力には、さらなる支援が必要です。

3. ご家庭へのお願い：月刊「基礎力プリント」の活用 ～「確かな学力」の土台を築く家庭学習～

令和7年9月25日に文部科学省中央教育審議会での論点整理でも示されている通り、資質・能力を育むための**出発点は、基礎的な「計算力」と「言語能力（語彙力、漢字、言葉の意味理解）」**です。これらは、いわば「深い学び」へのパスポートです。基礎が固まることで、より高度で楽しい学習へとスムーズに進むことができます。

そこで本校では、**6月より月刊「基礎力プリント」を配布いたします。1か月に国語7枚、算数7枚（合計14枚）を計画的に進める家庭学習**です。

この取組には、以下の3つの狙いがあります。

- ★自己調整力の育成：1か月の計画を自分で立て、1日1枚程度を「地道に継続」することで、自分の学習をコントロールする力を養います。
- ★保護者による「○付け」と状況把握：**保護者の皆様には、プリントの「○付け」をお願いいたします。**
単なるチェックではなく、お子さんの「伸び」や「つまずき」をリアルタイムで把握していただくための大切な機会です。
- ★対話を通じた「話す力」の向上：○付けの際、「どうやって解いたの？」と問いかけてみてください。
学校でも「ペアトークでの言語化」に取り組んでいますが、ご家庭でのこうしたコミュニケーションこそが、本校の課題である「自分の考えを言葉にする力」を育む最強のトレーニングになります。

月間「基礎力プリント」○付けとサポートのお願い

保護者の皆様は、お子様にとっての「○付け係」ではなく、共に学ぶ「パートナー」です。わからない時は一緒に辞書や教科書を引く習慣も、子供の「やりたい!」という意欲を引き出します。

「継続は力なり」。学校全体、そして地域・ご家庭が一つのチームとなり、子供たちの未来を創る「学びの土台」を共に育てていきましょう。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

ご不明点や質問やご意見等ございましたら、学校（25-2114 担当 岸山・幾島）までご連絡ください。

笑顔あふれる遠足

5月22日、遠足を実施しました。朝から「十勝晴れ」と呼ぶにふさわしい青空が広がり、絶好の遠足日和となりました。

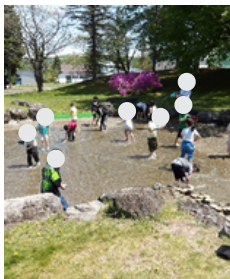
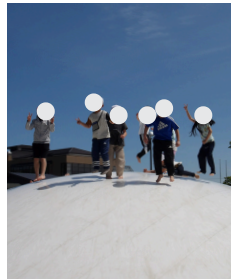
学校の玄関は通常8時に開きますが、この日は8時前からたくさんの子もたちが登校し、今か今かと玄関が開くのを待っていました。「待ちに待った遠足だー」「楽しみ!」「おやつはね…」「今日はみんなでたくさん遊ぶんだ」など、嬉しそうに話しかけてくれる子どもたちの表情は、期待と喜びに満ちあふれ、とても生き生きとしていました。

遠足は、文部科学省の学習指導要領において、「自然や文化などに親しみ、集団での行動を通して望ましい人間関係を育てるとともに、公共のきまりを守る態度や自立的に行動する力を養うこと」をねらいとしています。

各学年では、このねらいを大切にしながら、友達とより仲良くなれるように、みんなが楽しめるように工夫した交流レクリエーションを行いました。子どもたちは声をかけ合い、助け合いながら、笑顔いっぱい活動していました。

遠足を終えた6年生は、「最高の遠足でした」「みんなと過ごして楽しかった」「思い出がまた一つできました」と、満面の笑みで話してくれました。

この遠足を通して子どもたちは、友達と一緒に過ごすことの楽しさや大切さを、改めて実感することができました。これからの学校生活の中でも、この経験を生かし、仲間と支え合いながら成長していくことを願っています。



6月6日(土) 足寄小学校大運動会

6月6日(土)に、第27回足寄小学校大運動会を行います。今年のテーマは「心のバトン 絆の力で支え合い、仲間と共に限界突破!」です。

子どもたちは、仲間と声をかけ合いながら練習に取り組み、思いやりや協力することの大切さを感じています。また、それぞれが自分の役割を考えながら、みんなで力を合わせて運動会をつくろうと頑張っています。

その中で、「自分で考え、自分で決めて、自分で行動する子ども」の姿がたくさん見られ、子どもたちの成長をうれしく感じています。

当日は190名の児童が心一つにして、一生懸命に取り組めます。子どもたちのがんばる姿を温かく見守っていただけましたら幸いです。

お忙しいことと思いますが、ぜひご来校いただき、子どもたちへ温かいご声援をよろしくお願いたします。

6月6日(土)

6:00 花火打ち上げ

8:45 開会式

11:45 競技終了

12:10 下校

12:20 下校バス

★実施の有無はマチコミメールでお知らせいたします。

★進行状況により、時間が前後する場合がございます。

★競技終了後は給食はとらずに下校いたします。

1年生を迎える会

1年生を迎える会を実施しました。1年生がみんなと楽しく交流し、学校に親しみをもてるように、6年生が中心となって内容を考え、企画・運営を行いました。上級生の優しさに触れ、1年生にとって思い出に残る時間となりました。

また、6年生にとっても、下級生のことを思いやりながら主体的に取り組む姿が見られ、大きな成長の機会となりました。



交通安全教室

交通安全教室を実施しました。今回の交通安全教室は、児童一人一人が交通ルールの大切さを理解し、日常生活の中で自分の命を守る行動ができるようになることを目的としています。当日は、警察署や町の交通安全担当の方、交通安全指導員の皆様にご協力いただきました。

警察の方からは、自転車の正しい乗り方やヘルメット着用の重要性、歩道の安全な歩き方などについて、具体的に教えていただきました。その後、徒歩コースと自転車コースに分かれて実地訓練を行いました。特に横断歩道では、「止まる・見る・待つ」を合言葉に、左右の安全を確認してから渡ることを繰り返し練習しました。

今回の交通安全教室で学んだことを、日々の登下校や生活の中で生かし、交通事故に遭わないよう安全な行動を心がけていきましょう。

避難訓練(火災)

消防署の方々にご協力いただき、避難訓練を行いました。今回はボイラー室からの出火を想定し、緊急時に自分の身を守りながら、全員が安全かつ迅速に避難できることを目的として実施しました。

訓練では、避難の放送を合図に速やかに教室を出て廊下へ移動し、廊下にいる教員の指示に従って落ち着いて避難することを確認しました。「いつでも・どこでも」適切に行動できるよう、日頃からの備えの大切さを改めて学ぶ機会となりました。

また、訓練後には、6年生が煙体験、5年生が消火訓練を行いました。実際に近い体験を通して、火災時の危険性や対処方法について理解を深めることができました。

今後も防災意識を高め、安全な学校生活につなげていきます。



6月の行事予定

- 2日(火) 学校運営協議会
- 3日(水) 運動会総練習、職員会議
- 6日(土) 第27回足寄小学校大運動会
- 8日(月) 振替休日
- 10日(火) 歯科検診(1・2・3年)、水泳5年
- 11日(水) 児童会、水泳6年、不審者対応教室
- 15日(月) 水泳4年
- 16日(火) PTA運営委員会
- 17日(水) 水泳5年
- 18日(木) 宿泊学習5年、水泳1・2年
- 19日(金) 宿泊学習5年、水泳3年
水道出前授業4年
- 22日(月) 水泳4年、小中合同体力テスト5年
- 23日(火) 山菜工場見学2年
- 24日(水) 内科検診(1・4年)、水泳6年
ランプキ青空教室2年
- 25日(木) 移動図書、水泳3年
- 26日(金) クラブ、上下水道見学4年
- 29日(月) 水泳1・2年、アイヌ文化学習4年
修学旅行保護者説明会
- 30日(火) 歯科検診(4・5・6年)

足寄小学校 いじめのない学校づくりについて

いじめは、子供たちに心と体に深刻な影響を与える問題です。足寄小学校では、いじめを未然に防ぎ、子供たちが安心して学べる環境を整えるために、以下の取組を行ってまいります。

📢 いじめ未然防止の取組

- 教師一人一人が児童の教育的ニーズを押さえた上でわかりやすい授業を心がけ、児童の基礎・基本の定着に努めています。
 - 児童の人間関係をしっかりと把握し、日常生活における児童のやりとりに課題を見つけ、コミュニケーション・スキルを向上する意図的な指導をしています。
 - いじめは人として許されないという確固たる認識を持ち、毅然とした態度で取り組むとともに、いじめを見逃さない雰囲気づくりに努めています。
 - 児童一人一人がお互いの違いを認め合い、支え合う心の醸成に努めています。
 - 児童一人一人が安心でき、自己有用感や自己肯定感を感じられる以下の教育活動を推進しています。
 - ・ 児童の主体性を育み、地域とつながる活動（児童会活動、クラブ活動、授業等）
 - ・ 係、当番、児童会、行事などにおける役割活動
 - ・ 道徳教育、体験活動などによる豊かな情操と道徳心の育成、コミュニケーション能力の育成
 - ・ 児童が主体的に取り組めるよう工夫された学習活動
 - ・ 発達段階に応じた対人関係の適切な理解、及び対応ができる言語活動
- （学習活動、読書活動、読み聞かせ、家庭読書、家庭での学習習慣、望ましい生活習慣づくりの推進など）

📢 相談窓口の設置

いじめに関する相談窓口を設置し、子供たちや保護者の皆様が気軽に相談できる環境を整えています。校内のいじめ対策委員会が迅速かつ適切な対応を行います。

📢 警察との連携

いじめの問題が深刻化した場合、警察と連携を強化していきます。警察は、いじめの被害者や加害者に対する法的な支援を提供し、学校と協力して問題解決に努めます。

📢 保護者との協力

いじめを未然に防ぐためには、保護者の皆様のご理解とご協力が欠かせません。日頃からご家庭でのコミュニケーションを大切にし、お子様の様子や小さな変化にも目を向けていただくことが重要です。気になることやご心配な点がございましたら、些細なことでも遠慮なく学校までご連絡ください。

また、いじめアンケートにおいて「いじめられたことがある」と回答した児童については、学校で丁寧に取り組みを行い、事実関係の確認や今後の指導方針を検討しております。その内容につきましては担任より該当するご家庭へご連絡し、保護者の皆様と学校が連携しながら、児童が安心して学校生活を送ることができるよう支援してまいります。

📢 地域社会との連携

地域社会全体でいじめをなくすための取組を進めていきます。足寄町教育委員会や子どもセンター、足寄町生徒指導連絡協議会等と連携協力し、いじめ防止のための活動を実施していきます。子供たちが地域全体で守られていると感じられるような環境づくりを目指しています。

📢 児童が主体となった取組

足寄町内の小中学校の児童会生徒会が相互連携により、「いじめは許されない」という考えの下、協働していじめをなくすための方策を考え実行できるようにしていきます。（年に2～3回実施）

いじめをなくすためには、学校、家庭、地域社会が一体となって取り組むことが必要です。今後とも、子供たちが安心して学べる環境づくりに努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。また、お気づきの点等ございましたら、遠慮せず、学校（25-2114）へご連絡ください。

なお、本校のいじめ対策についての詳細につきましては、足寄小学校HP「いじめ防止基本方針」が掲載されていますので、ご覧ください。